



【発行】

東京鶴丸会事務局

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町

2-23 SSビル2階 宗村法律事務所

TEL：03-5298-8281

東京鶴丸会会長：奥 努（29回卒）

編集責任者：迫 啓子（30回卒）

同窓生との語り、今年も大いに楽しみましょう

東京鶴丸会会長 奥 努（29回卒）

同窓生の皆さん、お元気でいらつしやいますか？今年も総会の案内とともにこの「はろばろと」をお届けいたします。

まずは改めて昨年3月の東日本大震災で、お亡くなりになつた皆様のご冥福をお祈りするとともに、その後の復興に携わつておられる方々に深く感謝いたします。

さて私たちは昨年の総会で3年間の理事の任に就きました。前理事会から引継ぎで大きなものは「新しいホームページの作成」と「はろばろと60周年記念事業」でした。「新しいホームページの作成」は、昨年11月に無事にアップ出来ました。題字は24期の書家の方をお願いして、快く揮毫して頂きました。でも、作つただけで「はい終わり」では頂けません。これをしっかりと運用、活用していくことが大切です。ホームページから情報を発信していきますので、皆さんもこまめにご覧いただければと思います。

「はろばろと60周年記念事業」は、前理事会の時に東京鶴丸会の正式な行事として決定、鹿児島をはじめ各地区の

同窓会の賛同を得まして、準備を進めてきました。昭和27年3月の卒業式で、校歌「はろばろと」が公式の場で初めて歌われてから、今年で60年（還暦）を迎える事を記念して行うものです。校歌「はろばろと」がどのように誕生し、そこにどんなメッセージが込められているのか、作詞作曲をなさつた先生方の貴重な証言を中心にDVDにてお伝えしたいと思っております。実行委員会を立ち上げて、KTS様のご協力を得ながら、鋭意制作中です。6月23日の東京鶴丸会総会懇親会までに完成することをめざしています。

例年の活動としては、昨年7月2日に、期を超えて楽しめるレクリエーションとして、第3回目のゴルフコンペを開催しました。参加者は16期から54期までの48人。幅広い世代の交流が出来た楽しい一日となりました。次回もひとりでも多くの方が参加できるように準備したいと思つていきます。

10月1日には、就活生のためのセミナー「鶴ナビ」を開催しました。4回目となった今回は

学生30人に対して、社会人は内定者1名を含めて22人と大きな盛り上がりを見せました。休日にも拘わらず参加して下さつた社会人の皆さんの母校鶴丸への愛、熱い思いに触れる事が出来ました。

GO鶴セミナーは、昨年は実施されませんでした。東日本大震災の影響で修学旅行が関西へ変更になったためですが、今年7月に予定されております。「鶴ナビ」とともに、かわいい後輩のためにご協力いただけますようお願いいたします。

東京鶴丸会には、毎年多くの卒業生の方が出席して下さいます。これはやはり、この場に「懐かしい友との再会」「先輩、後輩との新しい出会い」があるからでしょう。今年の会場も「目黒雅叙園」。幹事の33回生の皆さんが一生懸命準備してくれています。同期生や先輩、後輩の方たちとの語り合いを、今年も大いに楽しみましょう。皆さんとお会い出来るのを楽しみにしています。

◇新理事紹介◇

第45回東京鶴丸会総会(2011年6月25日)におきまして、以下の理事会役員が承認されましたので、ご紹介します。

任期は2014年総会までの3年間です。(卒業回)／担当内容

奥 努(29)/会長、大人形 綱邦(29)/副会長・鶴ナビ、白石 純一(30)/副会長・GO鶴セミナー、千田 朋介(31)/副会長・事務局長、有川 久志(38)/鶴ナビ、有村 嘉哲(32)/会計監査、江川 京子(54)/事務局、榎田 卓央(32)/事務局・ゴルフ会、鎌ヶ迫 正俊(48)/WEB、上村 美和子(31)/会計、唐牛 文彦(30)/会計監査・GO鶴セミナー、迫 啓子(30)/会報「はろばろと」、下川 秀人(47)/おはら祭、嶽 里永子(52)/会報「はろばろと」、中島 秀也(33)/2012年総会担当幹事・はろばろと60周年企画、中俣 純子(31)/事務局・鶴ナビ、橋本 研一郎(29)/はろばろと60周年企画・GO鶴セミナー、畠中 洋一郎(31)/事務局、原田 政博(34)/GO鶴セミナー、福元 一志(30)/WEB、松延 真一(33)/2012年総会担当幹事、丸山 泰(29)/はろばろと60周年企画・会報「はろばろと」、宮原 義久(34)/2013年総会担当幹事、湯元 敏浩(34)/2013年総会担当幹事



東京鶴丸会公式ウェブサイト

『はろぼろと』のご紹介 <http://www.tsurumaru.net/>

東京鶴丸会は、より多くの同窓生の皆様へのタイムリーな情報提供を目指し、この度、公式ウェブサイト「はろぼろと」を、全面的に刷新し、毎年開催される総会・懇親会をはじめ、様々な東京鶴丸会の活動について、インターネットを通じて情報発信することになりました。

公式ウェブサイトでは、主に以下のような情報を発信しています。

- ◎東京鶴丸会について
- ◎東京鶴丸会総会
- ◎東京鶴丸会理事会
- ◎行事案内

『東京鶴丸会について』のページは、東京鶴丸会の概要、会則などを紹介していきます。

『東京鶴丸会総会』のページは、毎年開催される総会・懇親会の情報を提供しています。総会担当幹事から、世話人会や、総会・懇親会のメイン企画の情報などが発信されます。

『東京鶴丸会理事会』のページは、理事会が主催している活動をご紹介します。また、東京鶴丸会への入会、変更、退会の手続きを受け付けています。また、鶴丸高校在学中の2年生を対象に、東京圏で活躍する先輩の職場を訪問する「G

は、毎年開催される総会・懇親会の情報を提供しています。総会担当幹事から、世話人会や、総会・懇親会のメイン企画の情報などが発信されます。

総会・懇親会 案内ページ



「行事案内」のページは、東京鶴丸会が主催・参加するイベントとして、現在、ゴルフ会と渋谷おほら祭の情報を発信しています。

是非ともウェブサイトをご覧ください。楽しんでいたければ幸いです。

「鶴セミナー」、就職活動中の学生を対象に、企業の最前線で活躍されている先輩諸氏と業界別に分かれて懇談する「鶴ナビ」の情報も掲載されています。

第45回東京鶴丸会会計報告 平成22年8月1日～平成23年7月31日

支出		収入	
摘要	金額(円)	摘要	金額(円)
		前年度繰越 ①	4,903,233
本部会計(会報・同窓会総会案内・本部活動に関するもの)			
第45回総会案内印刷費	453,510	年会費	1,506,000
" 通信費	333,962	受取利息	970
" 世話人会関連費	255,818	雑収入	0
" 振替手数料他	101,009		
「はろぼろと」印刷費	92,977		
ご祝儀(平成22年度鹿児島総会)	30,000		
" (渋谷おほら祭)	0		
広告料(平成22年度鹿児島総会)	30,000		
理事会運営費	424,360		
鶴ナビ運営費	51,408		
「はろぼろと」60周年記念事業	128,028		
通信費・振込手数料他	3,150		
計	1,904,222	計	1,506,970
		本部会計収支差額 ②	△ 397,252
幹事学年会計(同窓会総会に関するもの)			
第45回総会会場費	3,850,923	第45回総会会費	4,522,000
" 運営費	747,952	" 祝金・寄付金	345,200
" プログラム・企画制作費	29,963	" 広告収入	634,790
" 幹事会等諸費	764,429	" 受取利息	268
" 新卒生親睦会費	62,928	" 雑収入	0
計	5,456,195	計	5,502,258
		幹事会計収支差額 ③	46,063
		次年度繰越 (①+②+③)	4,552,044

『出会えて、ヨカッタア』

第45回総会・懇親会

準備委員長

榎田 卓央 (32回卒)

『ヨカッタア!』

〜鹿児島アクセント〜

幹事学年になってから、いつの間にか、この言葉を何度も口にする事になりました。

思ってもいなかった場面です。以前から仲良かった同期と、いや、高校時代に話した事もない同期とも一緒に準備を進めていく中で。

『ヨカッタア!』

いい響きでした。終わってみれば、手前味噌ながら自分たちが想像していた以上に楽しませていただいた昨年の総会・懇親会。

700人を超える方々に参加して頂きました。しかしながら開催実施には様々な困難に直面しました。

昨年を振り返るにあたり、触れざるを得ないのは、3月に起きた東日本大震災。

誰もが体験したことのない未曾有の大災害による影響は、計り知れないものがありました。

2年間にわたって「総会懇親会の成功のために、一緒に頑張ろうね」と誓い合った同期が、幹事業務から一人去り、二人去

り…。皆がそれぞれの職場で必要な立場にいる事のあかしでした。

団「鶴丸De愛合唱団」を中心としたプログラムが進んでいき

た。

が、自分自身も企画班に入って合唱指導を手がけました。

さらに、予定通りに開催し会員の方々に果たして来て頂けるのか?という不安や、当時頻発していた余震が起きたらどうしようかと、一時は、開催の中止をも視野に入れて、同期の中でも議論を重ねました。そして、緊急理事会を開催して頂き、諸先輩方からお力添え

を沢山頂けるといふありがたい勇気を頂きました。

『鶴丸出身でヨカッタア』

最後の3ヶ月は、理事会や諸先輩方の心強いアドバイスや励ましも力に、準備の見直しをしながら、同期はフルパワーでした。人手が足りないところは補

い合いながら。

そして迎えた6月25日。心配していた雨模様にはならず、初夏の爽やかな陽気となった一日でした。

私達の大切な財産でもある校歌を、世代を超えた先輩後輩の縦の繋がりで奏でて鶴丸の歴史を全員で共有し未来の道標になることを願う混声合唱

集った参加者の皆さんの満足そうな歌声と表情に

『予定通りに開催できて

ホソノコテ、ヨカッタア』

今回、参加された方々のネームプレートには、幹事学年からのメッセージを書かせて頂きました。出会い。ここに集った700人の方々には、どんな出会いがあったのだろうか?そして、その出会いは、今後もっともっと大きくなつたならば、どんなに素晴らしいことか。そういう思いをあのメッセージカードに込めました。

送賓の際に、思わず皆様からねぎらいと感謝の言葉を頂きました。いえいえ、感謝すべきは、卒業後30年を経て幹事業務をさせてもらった私達32回卒一同です。困難を乗り越えられた同期、手前味噌ながら誇りに思い結びにこう記します。

『この同期でヨカッタア』



会場の様子



幹事学年 32回卒



鶴丸De愛合唱団

校歌『はろばろと』誕生60周年！

記念DVD制作進行中

昭和27年3月鶴丸高校第3回生の卒業式で、私たちの『はろばろと』は初めて生徒によって歌われました。それ以来、鶴丸高校を卒業した29000人以上の同窓生に歌い継がれ、今年誕生60周年を迎えています。

校歌『はろばろと』を作詞されたのは中馬幸子さん、作曲は郡山正さんという方であることは鶴丸の在校生・卒業生であれば誰でも知っていることです。しかし、作詞者作曲者が如何なる人物であるか、また、校歌がどのような経緯で世に出たかについては、意外と知られていないのではないのでしょうか？

実は、作詞者は、当時奈良女子大学を卒業したばかりで鶴丸高校の国語科教師2年目の21歳、中馬幸子先生であり、作曲者はこれまた東京芸大で美術を修め、鶴丸高校で美術を教えておられた郡山正先生だったのです。

昭和24年4月、前身の鹿児島県立第一中学校（一中）と鹿児島県立第一高等女学校（二校女）がいくつかの変遷を経て統合され鶴丸高等学校が誕生しました。新制高校になった翌年、当時の逆瀬川助熊校長の下、校歌を新たに制定す

る機運が起こり、生徒・職員・保護者・卒業生から広く作品が募集されました。詞は応募299編から応募作品「149番山田の案山子」が選ばれ、これが中馬幸子先生の作品でした。中馬先生の記憶によれば、初夏のある日、現在の中央高校の場所にあった鶴丸高校からの帰宅途中、甲突川べりを歩いていた折に突然一番が閃いたとのこと。先生は帰宅後急いで2番、3番の歌詞を作られ、一日にして現在の『はろばろと』の歌詞の原型が生まれたのです。その後国語科の先生方を中心にした推敲作業が行われ、完成したそうです。

詞が決定した後、曲の募集が始まり、総数45作品が寄せられました。その中から7作品に絞られました。何と、その中の2作品が郡山先生の作品だったのです。最終的には作詞の中馬先生の意見も取り入れられ、現在の曲が選定されました。

両先生は、中馬先生が83歳、郡山先生が98歳ながらご健在で現在、関東地方でお過ごしです。

『はろばろと』は、校門で、ふと浮かびました。それは、まさに天の声でした。『はろばろと』作曲の郡山先生はこう語って

くださいました。作詞の中馬先生も、当時の様子を精一杯語ってください、貴重な当時の資料を提供してくださいました。その内容とお二人のインタビュー映像は素晴らしいものです。

この貴重な内容を今こそ伝えなければならぬという想いから、東京鶴丸会の有志を中心に企画、全国の同窓会の賛同を得、『はろばろと』60周年記念事業実行委員会が発足、2年の歳月をかけ活動を行ってきました。その第一弾として、

記念DVDの制作が現在進められています。DVDの内容ですが、校歌誕生の物語を両先生のインタビューを交えてご紹介、また当時の鹿児島や鶴丸高校の様子を写真等で振り返る『はろばろと』誕生物語、60周年を記念して鶴丸高校音楽教諭遠藤先生の指揮指導の下、在校生十卒業生で世代を超えて歌い上げる『はろばろと』記念大合唱、学校や同窓会など様々なシーンで歌い継がれる『はろばろと』ユラージュなどで構成される30分程度のDVDとなります。

本年6月の完成を目指し、東京、鹿児島同窓会懇親会の場でお披露目、ご紹介する予定で進めています。『はろばろ

と』60周年記念事業への賛助金を皆様に募集させていただき、DVDをお届けしたいと考えております。集まった賛助金については、制作の実費をまかなった上、残金は鶴丸高校育英基金に寄付させていただきます。DVDのお届け方法等につきましては、改めて同窓会懇親会や東京鶴丸会ホームページを通じて、ご案内する予定にしています。

中馬先生のお言葉によれば、先生が「はろばろと」の歌詞に込められた想いは、「時は不可逆なり」、「還らざる三年」と同様に還ることのない「今」の時を力強く生きて欲しいという希望だそうです。鶴丸在校生であったこと、そして鶴丸高校が「はろばろと」という素晴らしい校歌を得たことを誇りとしている皆様は、共にこの記念事業に参加いただきたいと思えます。

2012年5月20日 渋谷・鹿児島おはら祭

例年、5月の第3土日に開催されている渋谷・鹿児島おはら祭ですが、昨年は未曾有の大震災の影響で、通常の文化村通り、道玄坂を使つての総踊りは中止となり、残念ながら東京鶴丸連としての踊りの場はありませんでした。しかし、その秋、11月2日、3日の第60回鹿児島おはら祭に鹿児島鶴丸連が発足することになり、東京鶴丸連からも20人程が東京で練習を重ね、天文館での前夜祭の総踊りに臨みました。規模、雰囲気とも渋谷と大きく違いのある中、緊張もありましたが、振る舞い酒も手伝って、皆、大いに盛り上がりました。鹿児島と東京の鶴丸の絆を感じる一夜でした。

2年ぶりの開催となる今年の渋谷・鹿児島おはら祭は、5月20日（日）に総踊りが行われます。



© Tomoko Koyama

同日、道玄坂ではさつまの食品展も開催されます。東京鶴丸連一同、一昨年のグランプリ連として恥ずかしくない踊りを披露できるよう、練習に励んでいます。是非、沿道からの声援をお願いいたします。そして来年は一緒に踊りましょう。

就職活動を開始する大学生、大学院生のみなさんへ 就職活動支援セミナー『鶴ナビ2012』を今秋開催します！

『就職氷河期』と言われる環境下で、就職活動をする大学生、大学院生のみなさんは、大きな不安とともに活動をしていることと思います。

東京鶴丸会では、そんなみなさんを強力にサポートします。各界で活躍する鶴丸のOB、OGの方々の協力の下、就職活動中のみなさんに向けたセミナー『鶴ナビ』を2009年からスタート致しました。

鶴丸OBで就職対策の専門学校で講師を務めている方の講演や、企業の最前線で活躍されている先輩諸氏が、業界別にテーブルに分かれて学生と話をするプログラムなど、就職活動をする学生には非常に貴重な場になると思います。



各業界で活躍するOBと話せるチャンス

過去の参加者からは、

「セミナーは今まで受けてきた中で一番勉強になりました。こんなにたくさんの方の話を聞く機会はなかなかなく、とても楽しかったです。」

「有意義な講義や社会人の方のお話を聞く事ができ、鶴丸生で良かったと改めて感じました。就職活動の良いスタートが切れました。」

「このような機会があること自体、幸せなことだと思います。後輩にも教えてあげます。」

「仕事の話だけでなく、人生論も聞けて楽しかったし、今後の自分の人生への参考になりました。」

(参加者アンケートより抜粋)
と言った声をいただき、大変好評でした。

昨年は、10月1日に開催。30名の学生と、社会人十内定者22名が参加し開催されました。大学1、2年生の参加も目立ちました。また、20歳前後の子供を持つOB、OGにとっても、38回卒の角倉さんの講義は、最新の就職活動対策が盛り込まれ、熱心に耳を傾ける内容となりました。



就職対策の講演

そして、鶴ナビ4回の実施を経て、当時学生だった人が今度は社会人として協力、参加しています。都市銀行に就職した方からは、「自分の就活のスタートがこの鶴ナビで、その時に聞いた話、親切にしてくれた先輩に本当に感謝している。だから今度は自分が鶴丸の後輩に同じようにアドバイスしてあげたい」という言葉も貰いました。

今年も秋(10月頃)の開催を予定しています。詳細は東京鶴丸会のホームページで、8月の中旬にはご案内致します。また、6月23日の東京鶴丸会総会の会場でも、案内チラシの配布や参加の申し込み受け付けを行います。

この「鶴丸愛」が溢れた会場で、今年もみなさんをお待ちしております！

東京鶴丸会ゴルフコンペのお知らせ

2011年の第3回ゴルフ大会は、7月2日、千葉県真名カントリークラブGPコースにて開催され、16回卒から54回卒まで、48名の皆様にご参加いただきました。優勝は26回卒 大久保 和一郎さんでした。ベストグロは、同じく26回卒 田中 和義前会長の74でした。

今年2012年は、**6月30日土曜日**に第4回コンペを真名カントリークラブ本コースで開催予定です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。参加ご希望の方は、

te818526@gmail.com 担当榎田(32回卒)まで、お申しください。また、WEBページにも開催情報を掲載していますのでご覧ください。皆様の多数のご参加お待ちしております。**(申込締切は5月30日とさせていただきます)**

<2011年第3回ゴルフコンペ結果>

優勝 : 大久保 和一郎(26回卒)
準優勝 : 松原 剛(23回卒)
男子ベストグロ : 田中 和義(26回卒)
女子ベストグロ : 福丸 玲子(24回卒)



GO 鶴セミナー 参加事業所募集

在校生(2年生)が東京地区修学旅行に際し卒業生の職場を訪問する「GO 鶴(ごうかく)セミナー」に、生徒を受入れ頂ける事業所を以下の要領で募集します。

◆日時: 2012年7月12日(木)
午前中で都合のよい時間

◆受入れ生徒数: 6~7名前後を1班として事前承諾を受けた1~2班

◆受入申込み: 5月7日(月)までに、東京鶴丸会公式ウェブサイト理事会コーナーの「事務局へのお問い合わせ」フォームにて参加申し込み下さい。お申し込み後、理事会から確認のご連絡をさせていただきます。

◆事業所の場所: 訪問終了後、京葉線舞浜駅(GO 鶴セミナー後の集合場所)へ14時までには到達可能な場所。

◆その他: 都心立地上、例年生徒割合に比較し文系卒業生の職場が多いようですので、理系卒業生の事業所(工場、研究所などの郊外立地)も奮ってご応募下さい。

『鶴丸高校』はこうして始まった

第1回卒業生 山下 清廣 先輩に伺う

年を経るごとに同窓会の輪は広がり、今年は63期生が東京鶴丸会に仲間入りする。年代の幅が増すほど、原点の記憶は薄れがちだ。鶴丸はどうやって始まったのか。1950（S25）年3月に鶴丸高校を卒業された第1期生の山下清廣さんにお話をうかがった。戦争の荒波に翻弄されながらも、青春期をたくましく生きた先人の姿が浮かび上がる。



鶴丸高校が誕生したのは1949（S24）年4月。終戦後校舎を転々とした後、女子が学んでいた加治屋町の校舎（現鹿児島中央高）に、薬師町から男子が机や椅子を自ら運び込み合流する形だった。4月14日に対面式があったと記録がある。山下さんたち1期生が在籍する3年生は、男子クラスが5組、女子クラスが2組編成された。ただ、男子クラスには、8人の女子が入って

きた。「『おれのクラスには女子が来た』『うちは来なかった』って話題になったよ。自分の組には6人来たが、教室で席は真ん中に集められた。『男女7歳にして席を同じゅうせず』と教えられたし、話すことはほとんどなかった」

鶴丸以前は、一中と一高女の集団が通学途中ばったり出くわし、真つ赤な顔をしてすれ違ったという。共学になって、異性への興味が増すのは自然の道理。学校も気を遣っていたのか、その年の12月、終業式で校長が「男女の風紀問題」について訓話している。野球部の主力として鳴らした山下さんは、音楽部にも入って女子との合唱をひそやかな楽しみにしていたらしい。

当初は文系、理系のクラス分けもなく、あまり受験、受験と厳しく言われなかったという。しかし、試験結果は1番からビリまで廊下に張り出された。

実は、山下さんたちは鶴丸1期生であると同時に一中、一高女の最後の卒業生でもある。戦中の1944（S19）年に12歳で一中、一高女に入学した。1948（S23）年4月に新学制高校が発足するが、鶴丸という校名はまだ登場しない。1年間は女子が鹿児島県鹿児島高等学校「三部」、男子が「五部」に在籍

鶴丸1回卒業生の一中・一高女入学から卒業までの過程

1944 (S19) 年 4 月	一中 (52 期) 一高女 (44 期) 入学	※S: 昭和
1945 (S20) 年 4 月	2 年生 (8 月終戦)	
1946 (S21) 年 4 月	3 年生	
1947 (S22) 年 4 月	4 年生	
1948 (S23) 年 4 月	新学制高等学校発足 高校 2 年生 鹿児島県鹿児島高校三部 (旧一高女) 同五部 (旧一中)	
1949 (S24) 年 3 月 4 月	最後の旧制一中・一高女卒業式 鹿児島県鶴丸高等学校 発足 (三部と五部を統合、学級数 27、生徒総数 1410 名) 鶴丸高校 3 年生	
1950 (S25) 年 3 月	鶴丸高校第 1 回生として卒業 (男 237 名 女 98 名)	

した。なぜ第三部と第五部なのか。「一中・一高女を頂点とする序列を避けるためだったらしい。」

1年後にできる「鶴丸」という校名も、多分にその影響を受けている。当初は「第一」や「中央」、「東」などが候補に上がったが、やはり退けられたという。山下さんは「鶴丸となった詳しい経緯は知らないが、いい名前。私は好きです」と話す。

後年と違い、当時の教師はあまり事細かに指導しなかった。「先生方は『自由な時代

になったんだから、やりたいことをやりなさい」とおっしゃっていた。戦争一辺倒の世の中が一変し、前みたいにならないうけ右」と強制すれば悪者になりかねない。おっかなびっくりだったのではない。生徒も突然目標がなくなり、『どうすればいいのかわからない』という感じだった。

山下さんは社会人として県外で働き出してから、一中・鶴丸人脈にたびたび助けられた。「先輩に電話して『卒業生の山下といいますが、お時間いただけませんか』というと、上場会社の社長でもみんな会ってくれた。一中、鶴丸に入つてよかったと思つたね」

だが戦争の傷跡は、彼らを勉強どころではなくした。「みんな食うのに精いっぱい。空襲で鹿児島市は焼け野原で何もなくなつた。同級生の半分ぐらいはアルバイトしてたんじやないか。学費や学校の復興資金のためにせつけんを仕入れて、北九州や宮崎に出かけ路上で売つた猛者もいた。バイトでくたびれて勉強したくない、つてやつもいたでしょう。それでも多くの人間が大学に進んだ」

今も年一回、一中・鶴丸時代の同窓生が集まっている。男女50人ほどが昔話に花を咲かせている。東京鶴丸会に出席するようになったのは、この数年のことという。「昨年の東京鶴丸会は、1期生で出席したのは自分ひとりだけ。しみじみ思うのは、往事の語り部がいなくなつていく。だから昔話を聞きたい人がいるならこんな自分でよかつたら、という気持ちで出てます。ただ、前の席に座っていないので、なかなか交流の機会がない。会場の外のたばこ部屋は、後輩の皆さんと話すいい機会になつている。ああいう交流の場がもつとあるといいですね」

ある生徒の日記には、親が家の大八車を売って授業料に充てた記録があり、子どもにはいい教育を受けさせたいという気持ちにがにじむ。そんな時代でも、生徒たちは高校生活をおう歌した。山下さんは「ちよいとワル」を自称、学校に行かず外で飛び回ること多かつたそうだが、野球部では一番バッターとして活躍。

最後に東京鶴丸会について。「一言でいえば『仲間』という言葉がぴったりくる。最初に始めた人は相当苦労したが、今や6、700人も集まる会になつた。今後も発展させて行こうではないか」

「高3の夏は鹿商や鹿実、甲南を破つて県大会で優勝した。しかし、当時夏の甲子園は1県1代表ではなく、大分、宮

(2012年2月19日取材)